



宝 永

URL: <http://www.shizuokam.com>

(一社)静岡県山岳・スポーツクライミング連盟

〒422-8076

静岡市駿河区八幡3-1-17

TEL(FAX) 054-288-7512

編集発行/総務委員会

令和4年11月14日発行

第41号



10月1日(土)の総合開会式のあと、2日(日)～4日(火)まで、第77回国体が「いちご一會とちぎ国体」の愛称のもと、栃木県壬生町でスポーツクライミング競技が実施された。本国体は3年ぶりの開催となつた。

競技初日の2日は、成年男子のボルダリングは、成年女子のボルダリングは、少年男子のボルダリングは、原、池田両名が第一課題を登るも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

10月1日(土)の総合開会式のあと、2日(日)～4日(火)まで、第77回国体が「いちご一會とちぎ国体」の愛称のもと、栃木県壬生町でスポーツクライミング競技が実施された。本国体は3年ぶりの開催となつた。

競技初日の2日は、成年男子のボルダリングは、成年女子のボルダリングは、少年男子のボルダリングは、原、池田両名が第一課題を登るも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

28位、少年男子のボルダリングは、鈴木音生が2完登、鈴木大翔が1完登するも後は完登ならずで14位とともに決勝進出はならなかつた。少年女子は

皇后杯4位少女大活躍 少男リード8位入賞 栃木国体



少女ボルダリング



少女リード



少男リード



成男ボルダリング

	予選		決勝		競技得点
	リード	ボルダ	リード	ボルダ	
成年男子	26位(予選敗退)	28位(予選敗退)	—	—	—
少年男子	7位(決勝進出)	14位(予選敗退)	8位	—	3
少年女子	5位(決勝進出)	4位(決勝進出)	3位	2位	39

オリンピック種目になって初めての国体で、各種別とも有力選手が多数出場しており、レベルの高い大会であったと思われる。特にその中で、少年女子の高校1年ペアによる2位、3位は今後の静

岡県のユース世代を勇気づける活躍であつた。少年女子の大活躍で皇子のリード8位入賞で、静岡県チームの競技得点は42点と久々の高得点が獲得でき、静岡県の国体成績に貢献できたことと自負しています。



また、今国体では、総合開会式に参加する機会を得ることができ、選手団一同は、天皇皇后両陛下ご臨席のもと堂々と入場行進することができました。さらに、静岡県選手団の旗手に少年男子の鈴木音生選手(東海大付属静岡翔洋高)が選出され、立派にその大役を果たしてくれました。県選手団の旗手が県岳連に回ってきたのは初めてのことであり、大変貴重な体験となりました。



Aコース出発

金時山、三国山に登る 第16回スポフェス登山大会

令和4年度の「第16回テイバル登山大会」は御殿場市がホストを務め、県境の山（金時山、三国山）を歩くコースで開催された。期日は、10月8日・9日の1泊2日Aコースと10月9日の日帰りBコースであった。

Aコースは、参加者8名同行役員2名で市営乙女キャンプ場駐車場を出発し、沢沿いに登り、一度国道138号を横断して乙女林道を進んだ。一汗かいて乙女峠に到着後、神奈川県境に沿つて稜線を歩きをすると金時山へ到着した。出発前は少しの間顔を見せた富士山は残

しおかスポーツフェスティバル登山大会」は御殿場市がホストを務め、県境の山（金時山、三国山）を歩くコースで開催された。期日は、10月8日・9日の1泊2日Aコースと10月9日の日帰りBコースであつた。

Aコースは、参加者8名同行役員2名で市営乙女キャンプ場駐車場を出発し、沢沿いに登り、一度国道138号を横断して乙女林道を進んだ。一汗かいて乙女峠に到着後、神奈川県境に沿つて稜線を歩きをすると金時山へ到着した。出発前は少しの間顔を見せた富士山は残

ながら雲の中であつたが、山頂は一般的の登山者で賑わっていた。山頂から少し外れた所で弁当を食べながら役員から「強力（こうりき）」の小見山正さん（金時娘の妙子さんの父）「や「童謡金太郎で知られる金時山」等についての説明を受けた。

下山は神奈川県側の矢倉沢峠方面に下り、途中の分岐点を右折して金時神社に到着した。ここからタクシーで駐車場に戻った。1日目の終了後は、各自で宿泊場所の国立青少年交流の家に移動し、夕食後に少人数ながら懇親会で盛り上がつた。

2日目は、各自ですばり道の駅隣接広場に移動し、紅富台登山口からスタートした。天気予報は午後から悪くなるようだつたが、立山、アザミ平を経て、見事なブナ林の稜線を大洞山、三国山（静岡、神奈川、山梨の県境）と心地よく進んだ。ここで先行していたBコースと合流し、ここから下

念ながら雲の中であつたが、山頂は一般的の登山者で賑わっていた。山頂から少し外れた所で弁当を食べながら役員から「強力（こうりき）」の小見山正さん（金時娘の妙子さんの父）「や「童謡金太郎で知られる金時山」等についての説明を受けた。

下山は神奈川県側の矢倉沢峠方面に下り、途中の分岐点を右折して金時神社に到着した。ここからタクシーで駐車場に戻った。1日目の終了後は、各自で宿泊場所の国立青少年交流の家に移動し、夕食後に少人数ながら懇親会で盛り上がつた。

Bコースは、参加者18名同行役員4名で2班



Bコース三国山山頂

八ヶ岳・赤岳登山 夏山登山教室 座学、実技講習を経て

指導委員会主催の「夏山登山教室」もコロナ禍の影響で完全開催は3年ぶりだった。

今年はコロナ対応を考慮し現地集合ということにした。中部横断自動車道の開通で凄く近くなつた「八ヶ岳・赤岳」を計画した。生徒さんは最終的には、リピーターを中心

に11名集まつた。

第一回座学で「夏山の登山裝備」と「読図の基本」を学んだ後に、第一回実技講座は7月10日に「山伏」で行つた。西日影沢コースは何回も登つたことがある方が多数だつたので、現場でコースの先読みの実習を行つた。

第二回座学では「夏山の気象」と「歩行技術と安全」を学んだ。特に内

山して三国峠駐車場に到着した。

たが、アザミ平からはAコースと同じ経路である。

アザミ平先の火山礫の原から小山町の景色がよく見えた。三国峠駐車場にA、Bコースとも一緒に到着後は、バスですばり道の駅隣接広場に戻つた。

心配された天気もつ

て無事閉会式が行われた。皆さんのおかげで怪我事故もなく無事に終了できました。次回の静岡市での大会を楽しみにしています。

(勝又 実)



赤岳山頂

屋はコロナ対策のために個室とした。小屋に着いた頃から雨になり、夜は本降りとなり21日の朝食の頃まで雨だつた。赤岳は無理かと思ったが、そ

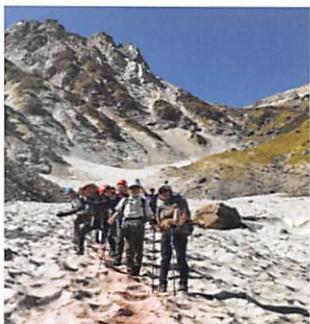
の後雨は止んだので山頂を目指した。皆さん健脚で予定通りに集合して、行者小屋を目指した。途中、この頃流行のスマホアプリの地図と地形図の違いを講師が説明した。行者小屋はコロナ対策のために個室とした。小屋に着いた頃から雨になり、夜は本降りとなり21日の朝食の頃まで雨だつた。赤岳は青空となり少しだけだつたが展望も見られた。生徒のAさんは本当に「晴男」だと皆でビックリしました。その後は無事に下山して「美濃戸口」に着く頃には本降りとなつた。生徒のAさんは本当に「晴男」だと皆でビックリしました。その後は無事に下山して「美濃戸口」に着く頃には本降りとなつた。3年ぶりの開催に天も味方してくれたようだつた。

講師や生徒さんのおかげで無事開催できた事に感謝した。登山教室の今後SNS等を利用していく事は生徒さんの募集方法を感じ、雨の八ヶ岳を後にして。



文三郎道

(鈴木 修)



白馬岳大展望を楽しむ 秋山登山教室 白馬岳登山

「え、たつたこれだけ？」雪が多かったと記憶していた昨シーズンの北アルプスだが、名にし負う白馬の大雪渓のあまりの少なさに参加者から落胆のため息が漏れた。十日前に静岡市内で行われた本教室の座学の席上、「核心部は標高差600mの手強い雪渓歩きとなります。簡易アイゼンでよいのでザックに忍ばせてください。事前準備は怠りなく。」と説明している手前、ここは自らが率先してザックから簡易アイゼンを取り出し早速装着完了。「よし、行くぞ！」既に雪渓のゴル地点であるインゼルを見ているが、隊のリーダーとしてあえて大きな声で雪の上に降り立ち、

先頭を歩くことにした。程よい傾斜の雪面に簡易アイゼンの刃が気持ちよく食い込んでいく。メンバー9名全員が緊張の面持ちの中、遙か山頂に思いをはせつつも今は足元の雪面にのみ意識を集中して、少しづつではあるが確実に高みへの歩みを進めていた。

絶好の登山日和の中、今シーズンの登山道整備時に付けられたと思われるベンガラも消えかけた晩秋の「白馬岳（2932m）」が今回の登山教室の舞台となる。

前日夜に2名のメンバーから「不参加」との連絡があり、受講生9名、講師3名の布陣となつたが、予定どおり10月1日早朝、集合場所である白馬村猿倉駅での前泊を決め込み、倉駅に全員が集まつた。猿倉駅に宿泊する受講生もいるが殆どは寝不足の顔をしている。「よし、気合を入れよう！」早速講師の号令のもと、みんなで入念にストレッチ体操を行

い、足、腰、手をしつかり伸ばしてから、山荘横の登山道を加藤が先頭で登り始める。いきなりの急登で後方から早速声がかかる、「リーダー、ペース早いよ！」はいはい、スミマセン。気をつけまます。そして冒頭の大雪渓を経て14時30分、今日の宿泊場所である白馬山荘に全員無事に到着した。かなりバテ気味の参加者もあり、まさにたどり着かれていた。

翌2日も最高の天気である。朝一から全員で山頂アタックに向かうが、朝食の設定時間のためか、わずかにご来光には遅れてしまつた。6時10分、山頂到着である。日本海



中学生の活躍が顕著に クライミングコンテスト9月大会

9月23日にスクエアクライミングセンターにて、

今年度最初のクライミングコンテスト9月大会が行われた。この会場での大会は、予選1本、決勝

1本で争われる。強傾斜の壁を指定されたホールドを使いゴールを目指していく。

男子は18名の出場があり、小学生から高校生まで参加しているために体

会開催ができた。男子は18名の出場があり、小学生から高校生まで参加しているために体

会開催ができた。男子は18名の出場があり、小学生から高校生まで参加しているために体

に浮かぶ漁船の漁火も微かに認められる。360度の展望を楽しんだ。全員の笑顔が眩しい。下山も大雪渓経由で、来た道をひたすら戻る。途中足が悲鳴をあげたメンバーもいたが、ほぼ予定通りに猿倉に到着。

こうして今年の秋の登山教室を終えることが出来た。山での歩き方、小屋での生活の心得等、互いに切磋琢磨して、今後の登山に活かしてくればうれしく思う。

（加藤敏美）

談笑タイム。苦しかったことだろう。今回は生憎たれた受講生も多かつたが、それでも多くの受講生が参加してくれた。今回も秋山教室の必須項目である「自炊」は自肅したが、この黄昏のひと時のおかげで救われた思いであった。

翌2日も最高の天気である。朝一から全員で山頂アタックに向かうが、朝食の設定時間のためか、わずかにご来光には遅れてしまつた。6時10分、山頂到着である。日本海

（岩田幸裕）

男子	1位 船越 球生	2位 宮川 幸大	3位 堀岡 韶人	4位 岡部 星輝	5位 中川琥 太朗	6位 川口 太造	1位 永嶋 美智華	2位 犬野 周里	3位 堀内 優里	4位 蒔田 邦	5位 山本 唯菜
----	----------	----------	----------	----------	-----------	----------	-----------	----------	----------	---------	----------

いわゆる「落とし所」にどう対処できるかが分け目となつた。決勝では最終ループを抜けた先が勝負所となり、予選の1～3位に入った選手が上位に入つた。女子は14名の出場となり、中学生が9名と最多である。これまでと比べても、登れる選手も増えしており、かなりレベルの高い試合となつてきていている。その中でも決勝で進出する集団は、男子と同ルートでも遜色がないかもしれない。決勝では予選の順位がそのまま反映された結果になつたが、今後は上位争いが激しくなり、県内のクライミングが活発になつていくと予想される。

（岩田幸裕）



第77回国体帶同トレーナーとして 整え処ときわぎ 梶原邦昭

今回このような大変貴重な機会をいただけたことに感謝申し上げます。当初は少年男子の帯同とお話をいただいていたのですが、実際には成年男子、少年男子、少年女子と全カテゴリーの選手達と関わらせていただき大変有意義な時間を過ごすことができました。

関わらせていただいたりの中で感じた課題の一つに、県を代表するトップレベルの選手においても心身をケアする時間を重要視しておらず、慢性的な不調を抱えていることが普通」の状態になつてゐる選手が多いという点です。

この問題を解決するには日々のケアこそが重要な意識を持つ選手から当たり前に持つてもらえるようにしていくことだと感じました。

不調を抱えた身体状況では十分なパフォーマンスを発揮することは難しいでしょし大会期間中

内容として成年男子では大会終了後のケア、少年男子ではアイソレーションに入つてからのウォーミングアップ、少年女子ではリード予選と決勝の合間でのコンディショニングに加え、予選突破後の痛み発生に対するケアをさせていただきました。

帯同を通じ選手との関わりの中で感じた課題の一つに、県を代表するトップレベルの選手においても心身をケアする時間を重要視しておらず、慢性的な不調を抱えているもの「不調を抱えている選手が多い」という点です。

この問題を解決するには日々のケアこそが重要な意識を持つ選手から当たり前に持つてもらえるようにしていくことだと感じました。

整え処ときわぎ 梶原邦昭

久治、増田浩二、出利利義次、大石幸男、鈴木修、鈴木雅春、中川清、内海裕治、加藤敏美、岩田幸

の関わりだけでは解決しきれません。そのため選手個々人の身体的な特徴の把握に加え、個別性のあるケア方

法、段階的なトレーニングの提供などの観点から定期的な強化練習会などに参加し、コンディショニング、トレーニングの伝達を継続していくことで代表選手をサポートする体制を構築することも重要なのではないかと感

じました。

より一層静岡県の代表選手達が活躍することを願っております。

(梶原 邦昭)

第2回理事会

日時 令和4年9月5日 (月) 18時30分～19時30分

会場 静岡県男女共同参画センター「あざれあ」5階

出席者 理事18名中16名監事2名中1名

理事 重幸、前川朝夫、滝田幸之、小林久二彦、望月喜

(2) 競技委員会

- ・国民体育大会スポーツ
- ・クライミング競技・第43回東海ブロック大会を7月16日・17日で実施した。
- 静岡県は少年男子、少年女子の出場で成年女子は

不参加であった。少年男子、少年女子とともに1位であった。

・第77回国民体育大会

(3) 国際委員会

月26日(水)～5月14日(日)の19日間で実施する。

ナヤカン(五八四四m)、ヤラピーケ(五五二〇m)を目指す。

・令和4年度第16回しづおかスポーツフェスティバル山岳競技(東部地域大会)を10月8日～9日で実施。Aコースは金時山(二二二二m)、Bコースは三国山(二三四三m)を目標とする。

・(4)その他

本年度は10月1日、宇都宮市の「カンセキスタジアムとちぎ」で実施される総合開会式に参加することとなつた。総合開会式では静岡県選手団の旗手として、少年男子の鈴木音生選手が選出された。

・第5回南アルプス写真展(山の日記念行事)静岡県内山岳4団体が主催し、静岡市民ギャラリーで、1階)で11月1日(火)～6日(日)の期間で実施する。展示写真を公募しているので、各団体の会員等に声掛けし、出品ををお願いしたい。

・第23回竜爪山岳競技会を・12月11日(日)に実施予定。新型コロナウイルス感染症対策として、昨年同様、高校の部の出場を「男子5名、女子5名」に制限する。また、静岡県高等学校体育連盟のガイドラインの変更に伴い要項にも反映してある。

(鈴木重幸)